

平成28年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔 教育学部第四類（生涯活動教育系）健康スポーツ系コース〕

プログラムの名称（和文）	健康スポーツ教育プログラム
（英文）	Health and Sports Education
1. 取得できる学位	<p>本プログラムによって、学士（教育学）の学位が取得できる。必要な単位数は、教養教育44単位および専門教育84単位（専門基礎科目22単位、専門科目25単位、専門選択科目31単位、卒業研究6単位を含む）計128単位である。</p>
2. 概要	<p>本プログラムでは、健康やスポーツに関わる幅広い知識と高い実践力を備えた専門家（保健体育科教員やスポーツ指導者など）を育成することを目指している。そのために、体育科教育学、健康学、体育・スポーツ学などの各専門分野の学習を通して、生涯にわたる心身の健康の維持・増進やスポーツ活動についての科学的認識を深めるとともに、各種スポーツの指導・学習方法に関する理論にもとづく実践力と指導力を身につけることを課題としている。これらの学習を通して中学校・高等学校教員免許（保健体育）が取得でき、また各種の社会体育関係資格の受験資格を得ることができる。</p>
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）	<p>本プログラムでは、健康やスポーツに関わる幅広い知識と高い実践力を備えた専門家（保健体育科教員やスポーツ指導者など）を育成することを目指している。教育課程の定める基準となる単位数を習得した学生に「学士(教育学)」の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育科教育学、スポーツ方法学、スポーツ学などの専門分野の学習を通して、健康やスポーツに関する知識を基に現代社会で指導的な役割を果たすことができる。 ・生涯にわたる心身の健康の維持・増進やスポーツ活動についての科学的認識を深めることができる。 ・各種スポーツの指導・学習方法に関する理論にもとづく実践力と指導力を身につけることができる。 ・スポーツを通じた異文化・異領域への共感と理解を深めることができる。
4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）	<p>1・2年次では、専門基礎科目を中心に各種スポーツ種目に関する指導内容について十分な知識や技能を獲得する。併行して、学問を体系的に学ぶために、学校体育、社会体育などの各種の運動指導場面を考慮した実践的指導力を育む。各授業科目において理論的に学んだカリキュラム作成、教材開発、指導案作成などを実践的な課題遂行として行う実践的能力を育む。プログラム全体を通しての能力開発を計画しているが、高学年次では、特定の専門領域・専門科目に集約し、卒業論文としてまとめることを目指している。</p>
5. 開始時期・受入条件	<p>プログラムの開始（選択）時期は、1年次。</p>
6. 取得可能な資格	<p>教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより、中学校教諭一種免許（保健</p>

体育)、高等学校教諭一種免許(保健体育)を取得できる。又、指定された科目を修得することにより日本体育協会公認「スポーツリーダー」「ジュニアスポーツ指導員」「スポーツプログラマー」「アシスタントマネージャー」、健康・体力づくり財団認定「健康運動実践指導者」の講習が免除され、資格認定試験の受験資格が取得できる。さらに、日本体育協会公認コーチ等の資格を取得するための基礎となる「共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の修了証を取得できる。

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること(履修表を添付する)。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S (秀: 90点以上)	4
A (優: 80~89点)	3
B (良: 70~79点)	2
C (可: 60~69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00~4.00
優秀(Very Good)	2.00~2.99
良好(Good)	1.00~1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文(卒業研究)(位置づけ、配属方法、時期等)

卒業論文(卒業研究)は本プログラムの集大成であり、特定の研究課題に向け、健康やスポーツに関わる専門家としての力量をその課題解決に集約するものである。3年次後期開始時に研究分野と卒業論文指導教員を決め、指導教員の指導のもとで準備を進め、4年次で卒業論文を作成する。卒業論文指導教員の決定の条件は、原則として3年次後期末までに当該教員の授業(講義及び演習あるいは実験)の履修が修了していることである。研究テーマが決定した後、卒論テーマ発表、中間発表、最終発表が義務づけられる。

10. 責任体制

(1) PDCA責任体制(計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action))

本プログラムは、主として教育学部の健康スポーツ科学講座のスタッフによって遂行される。その責任はプログラム責任者(講座主任)にある。PDCA責任体制は本プログラム委員会が行う。

(2) プログラムの評価

教育的効果と社会的効果の2つの観点から評価する。教育的評価では、学生の学習効果を判定する。社会的効果では、プログラムの学習結果の有効性を判定する。

○評価の実施方法

原則として入学して4年経た年次にプログラムの成果を評価する。教育的効果に関しては、学生の到達率による評価、及び教員グループによる総合的評価によって行う。社会的効果に関しては、学生の教員採用試験の合格率による評価、各種の社会体育関係資格の合格率、全体的な就職率などによって評価する。

○学生へのフィードバック

プログラムの評価結果は、プログラム担当委員会において、プログラム内容の見直し、改善と共に、学生指導、各授業科目の効果を検討し、下学年のプログラム運営に反映させる。

教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

第四類 健康スポーツ系コース（健康スポーツ教育プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)														
						1年次		2年次		3年次		4年次								
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ							
教養教育科目	教養コア科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○													
		平和科目	2		2	選択必修	○	○												
		パッケージ別科目	6	決定された1パッケージから3科目	2	選択必修	○	○												
	共通科目	外国語科目	英語 (注2)	(0)	コミュニケーション基礎 I	1	自由選択	○												
					コミュニケーション基礎 II	1			○											
			英語 (注3)	4	コミュニケーション I	コミュニケーション I A	1	選択必修	○											
						コミュニケーション I B	1		○											
					コミュニケーション II	コミュニケーション II A	1			○										
						コミュニケーション II B	1			○										
			上記4科目から2科目以上																	
			英語 (注2)	2	コミュニケーション III	コミュニケーション III A	1	選択必修												
						コミュニケーション III B	1				○	○								
						コミュニケーション III C	1													
		上記3科目から2科目																		
		初修外国語 (ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語のうちから1言語選択)	4	ベーシック外国語 I から2科目		1	選択必修	○												
				ベーシック外国語 II から2科目		1			○											
情報科目	2	(注4)	2	2	選択必修	○														
領域科目	(20)	すべての領域から(注5)	1又は2	1又は2	選択必修	○	○	○	○											
健康スポーツ科目	2		1又は2	1又は2	選択必修	○	○													
基盤科目	(0)		1~3	1~3	自由選択	○	○	○	○											
計	44																			

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習A・B」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーション I A」及び「コミュニケーション I B」が、2セメスターは「コミュニケーション II A」及び「コミュニケーション II B」が指定されている。

注4：1セメスター開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は、2セメスター開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注5：・教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。

・修得したコミュニケーション基礎の単位を算入することができる。

・修得した基盤科目の単位は、4単位まで算入することができる。

学部履修基準

第四類（生涯活動教育系）

○ 健康スポーツ系コース（健康スポーツ教育プログラム）

科目区分等			要修得単位数		開設学部	
教 養 教 育	教養コア科目	教 養 ゼ ミ	2		総 合 科 学 部 ほ か	
		平 和 科 目	2			
		パ ッ ケ ー ジ 別 科 目	6			
	共 通 科 目	外国語科目	英 語	6		
			初修外国語	4		
		情 報 科 目	2			
		領 域 科 目	(20)			
		健 康 ス ポ ー ツ 科 目	2			
基 盤 科 目		(0)				
専 門 教 育	専 門 基 礎 科 目		22		教 育 学 部 ほ か	
	専 門 科 目		25			
	専 門 選 択 科 目		31			
	自 由 選 択 科 目					
	卒 業 研 究		6			
合 計			128			

<履修上の注意>

『自由選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、31単位まで認める。

専門教育科目履修基準

第四類 健康スポーツ系コース (健康スポーツ教育プログラム)

開設単位数欄の○印数字は必修
履修セメスター欄の○印は標準履修セメスター

区分	授業科目	開単 位 設 数	履 修 セ メ ス タ ー								免許法該当科目	備 考		
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ				
専 門 基 礎 科 目	生涯活動教育論	②				○								類共通科目
	健康・スポーツ総論	②		○										
	救急看護法	2				○							学校保健	
	公衆衛生学	2	○										衛生学及び公衆衛生学	
	バイオメカニクス	2			○								生理学	
	体育科教育概論	2			○								教科の指導法 (保健体育)	
	体育科教育課程・教材構成論	2				○							〃	
	体育・スポーツ行政学	2				○							【体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学】及び運動学	
	陸上競技 I	1	○										体育実技	
	器械運動 I	1		○									〃	
	舞踊 I	1			○								〃	
	水泳 I	1			○								〃	
	武道 A I (柔道)	1			○								〃	
	武道 B I (剣道)	1	○										〃	
	球技 A I (バレーボール)	1	○										〃	
	球技 B I (サッカー)	1	○										〃	
	球技 C I (バスケットボール)	1		○									〃	
	球技 D I (テニス)	1			○								〃	
	アクアスポーツ	1			○								〃	
	野外活動 A I (登山・キャンプ)	1	○										〃	
野外活動 B I (スキー)	1				○							〃		
トレーニング実習 I	1		○									〃		
専 門 科 目	スポーツ生理学	2					○						生理学	
	スポーツ生理学実験	1						○					〃	
	学校保健	2				○							学校保健	
	スポーツ医学 (スポーツ栄養学を含む)	2					○						衛生学及び公衆衛生学	
	スポーツ社会学	2				○							【体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学】及び運動学	
	スポーツ社会学演習	1						○					〃	
	スポーツ経営学	2					○						〃	

区分	授業科目	開単 位 設 数	履修セメスター								免許法該当科目	備考
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ		
専 門 科 目	スポーツ経営学演習	1						○			〔体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学〕及び運動学	
	スポーツ心理学	2						○			〃	
	体育科教育概論演習	1						○			教科の指導法（保健体育）	
	体育科教育課程・教材構成論演習	1						○			〃	
	保健体育科教育方法・評価論	2					○				〃	
	舞踊教育論	2				○					〔体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学〕及び運動学	
	舞踊教育論演習	1						○			〃	
	運動技術論	2					○				〃	
	運動技術論実験	1						○			〃	
	コーチング論	2					○				〃	
	コーチング論実験	1						○			〃	
	スポーツトレーニング学	2			○						〃	
	陸上競技Ⅱ	1				○					体育実技	
	器械運動Ⅱ	1						○			〃	
	舞踊Ⅱ	1				○					〃	
	水泳Ⅱ	1					○				〃	
	球技AⅡ（バレーボール）	1					○				〃	
	球技BⅡ（サッカー）	1			○						〃	
	球技CⅡ（バスケットボール）	1				○					〃	
	武道AⅡ（柔道）	1					○				〃	
武道BⅡ（剣道）	1			○						〃		
トレーニング実習Ⅱ	1				○					〃		

主専攻プログラム(健康スポーツ教育プログラム)における学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 学校体育とその教育における基本的知識と理解	中等学校を中心とした学校体育を十分理解しており、その問題点や課題に対する改善策を提案できる。	中等学校を中心とした学校体育に関する知識や理解を持ち、その問題点や課題を理解、指摘できる。	中等学校を中心とした学校体育に関する基本的な理解ができている。
	(2) 社会体育とその教育における基本的知識と理解	社会体育を十分理解しており、その問題点や課題に対する改善策を提案できる。	社会体育に関する基本的な理解を持ち、その問題点や課題を理解、指摘できる。	社会体育に関する基本的な理解ができている。
	(3) 健康やスポーツに関する1)2)を含んだ幅広い知識と理解	健康やスポーツに関する幅広い知識と理解を持ち、総合的・批判的に検討できる。	健康やスポーツに関する基本的な事項に対する知識と理解を持ち、その問題点や課題を理解、指摘できる。	健康やスポーツに関する基本的な事項に対し、理解ができている。
能力・技能	(1) 学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。また、学校体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	中等学校を中心とした学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、総合的・批判的に検討でき、改善策を提案できる。また、中等学校を中心とした学校体育に関するカリキュラム(目標・内容・方法)を総合的・批判的に分析したり、デザインして提案することができる。	中等学校を中心とした学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマに適切にまとめ、検討できる。また、中等学校を中心とした学校体育に関するカリキュラム(目標・内容・方法)を適切に分析したり、デザインしたりすることができる。	中等学校を中心とした学校体育に関する資料・情報を収集し、関連づけて考えることができる。また、中等学校を中心とした学校体育に関するカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。
	(2) 社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。また、社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、総合的・批判的に検討でき、改善策を提案できる。また、社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を総合的・批判的に分析したり、デザインして提案することができる。	社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマに適切にまとめ、検討できる。また、社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を適切に分析したり、デザインしたりすることができる。	社会体育に関する資料・情報を収集し、関連づけて考えることができる。また、社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。
	(3) 健康やスポーツに関する諸問題に関心をもち、それらを研究することができる。また、各種の運動指導場面で諸条件を考慮した実践的指導力を持っている。	健康やスポーツに関する諸問題に関心をもち、それらを一定の視点から総合的・批判的に研究し、解決策を提案することができる。また、各種の運動指導場面で諸条件を十分に考慮した高い実践的指導力を持っている。	健康やスポーツに関する諸問題に関心をもち、それらを一定の視点から適切に研究することができる。また、各種の運動指導場面で諸条件を考慮した実践的指導力を持っている。	健康やスポーツに関する諸問題に関心をもち、それらを研究することができる。また、各種の運動指導場面で実践的指導力を持っている。
総合的な力	(1) 個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を企画・立案、実行することができる。	個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を総合的・成功的に企画・立案、実行することができる。	個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を適切に企画・立案、実行することができる。	個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を企画・立案、実行することができる。
	(2) 健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動でリーダーシップを発揮することができる。	健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動で適切なリーダーシップを十分発揮することができる。	健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動でリーダーシップを発揮することができる。	健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動に参加することができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

健康スポーツ教育プログラムにおける教養教育は、専門教育を受けるための学問的基礎づくりを担う。つまり、人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について、多角的な視点から考察することができる力を育成する。また、外国語能力を身につけるとともに、情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の処理や受信を適切に行うことができる。さらに情報を活用するためのモラルと社会的課題について理解することができる能力を育成します。

別紙3

評価項目と授業科目との関係

科目区分	授業科目名	単位数	必修・ 選択 区分	開設期	評価項目														科目中の評価項目の 総加重値		
					知識・理解						能力・技能						総合的な力				
					(1)		(2)		(3)		(1)		(2)		(3)		(1)	(2)			
					科目中の 評価項目の 加重値	評価項目中の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値	評価項目中の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値	評価項目中の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値	評価項目中の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値	評価項目中の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値	評価項目中の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値	評価項目中の 加重値			
教養教育科目	教養ゼミ	2	必修	1セメ							50	1	50	1							100
教養教育科目	平和科目	2	選択必修	1-2セメ												100	1				100
教養教育科目	パッケージ科目	6	選択必修	1-2セメ	100	1															100
教養教育科目	英語	6	選択必修	1-4セメ							50	1	50	1							100
教養教育科目	初修外国語	4	選択必修	1-2セメ							50	1	50	1							100
教養教育科目	情報科目	2	選択必修	1セメ							50	1	50	1							100
教養教育科目	領域科目	20	選択	1-4セメ			100	1													100
教養教育科目	健康スポーツ科目	2	選択必修	1-2セメ	50	1					50	1									100
専門基礎科目	生涯活動教育論	2	必修	4セメ-3T												50	1	50	1		100
専門基礎科目	健康・スポーツ総論	2	必修	2セメ-3T												50	1	50	1		100
専門基礎科目	救急看護法	2	選択	4セメ-3T	34	1	33	1	33	1											100
専門基礎科目	公衆衛生学	2	選択	1セメ-2T	34	1	33	1	33	1											100
専門基礎科目	バイオメカニクス	2	選択	3セメ-1T	34	1	33	1	33	1											100
専門基礎科目	体育科教育概論	2	選択	3セメ-1T	34	1	33	1	33	1											100
専門基礎科目	体育科教育課程・教材構成論	2	選択	4セメ-4T	34	1	33	1	33	1											100
専門基礎科目	体育・スポーツ行政学	2	選択	4セメ-3T	34	1	33	1	33	1											100
専門基礎科目	陸上競技 I	1	選択	1セメ-2T							50	1	50	1							100
専門基礎科目	器械運動 I	1	選択	2セメ-4T							50	1	50	1							100
専門基礎科目	舞踊 I	1	選択	3セメ-1T							50	1	50	1							100
専門基礎科目	水泳 I	1	選択	1セメ-2T							50	1	50	1							100
専門基礎科目	武道A I (柔道)	1	選択	3セメ-2T							50	1	50	1							100
専門基礎科目	武道B I (剣道)	1	選択	3セメ-2T							50	1	50	1							100
専門基礎科目	球技A I (バレーボール)	1	選択	3セメ-1T							50	1	50	1							100
専門基礎科目	球技B I (サッカー)	1	選択	1セメ-1T							50	1	50	1							100
専門基礎科目	球技C I (バスケットボール)	1	選択	1セメ-2T							50	1	50	1							100
専門基礎科目	球技D I (テニス)	1	選択	2セメ-4T							50	1	50	1							100
専門基礎科目	アクアスポーツ	1	選択	2セメ-4T							50	1	50	1							100
専門基礎科目	野外活動A I (登山・キャンプ)	1	選択	1セメ-1T							50	1	50	1							100

科目区分	授業科目名	単位数	必修・ 選択 区分	開設期	評価項目														科目中の評価項目の 総加重値			
					知識・理解					能力・技能					総合的な力							
					(1)		(2)		(3)	(1)		(2)		(3)	(1)		(2)					
					科目中の 評価項目の 加重値	評価項目中の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値	評価項目中の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値	評価項目中の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値	評価項目中の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値	評価項目中の 加重値	科目中の 評価項目の 加重値		評価項目中の 加重値		
専門基礎科目	野外活動B I (スキー)	1	選択	6セメ4T							50	1	50	1							100	
専門基礎科目	トレーニング実習 I	1	選択	1セメ2T							50	1	50	1							100	
専門科目	スポーツ生理学	2	選択	5セメ2T	34	1	33	1	33	1											100	
専門科目	スポーツ生理学実験	1	選択	6セメ4T							34	1	33	1	33	1						100
専門科目	学校保健	2	選択	4セメ4T	34	1	33	1	33	1											100	
専門科目	スポーツ医学(スポーツ栄養学を含む)	2	選択	5セメ1T	34	1	33	1	33	1											100	
専門科目	スポーツ社会学	2	選択	4セメ2T	34	1	33	1	33	1											100	
専門科目	スポーツ社会学演習	1	選択	6セメ3T							34	1	33	1	33	1						100
専門科目	スポーツ経営学	2	選択	5セメ1T	34	1	33	1	33	1											100	
専門科目	スポーツ経営学演習	1	選択	6セメ3T							34	1	33	1	33	1						100
専門科目	スポーツ心理学	2	選択	6セメ3T	34	1	33	1	33	1											100	
専門科目	体育科教育概論演習	1	選択	6セメ4T							34	1	33	1	33	1						100
専門科目	体育科教育課程・教材構成論演習	1	選択	6セメ3T							34	1	33	1	33	1						100
専門科目	保健体育科教育方法・評価論	2	選択	5セメ2T	34	1	33	1	33	1											100	
専門科目	舞踊教育論	2	選択	4セメ2T	34	1	33	1	33	1											100	
専門科目	舞踊教育論演習	1	選択	6セメ3T							34	1	33	1	33	1						100
専門科目	運動技術論	2	選択	5セメ2T	34	1	33	1	33	1											100	
専門科目	運動技術論実験	1	選択	6セメ3T							34	1	33	1	33	1						100
専門科目	コーチング論	2	選択	5セメ2T	34	1	33	1	33	1											100	
専門科目	コーチング論実験	1	選択	6セメ3T							34	1	33	1	33	1						100
専門科目	スポーツトレーニング学	2	選択	3セメ1T	34	1	33	1	33	1											100	
専門科目	陸上競技II	1	選択	4セメ4T													100	1			100	
専門科目	器械運動II	1	選択	2セメ4T													100	1			100	
専門科目	舞踊II	1	選択	2セメ3T													100	1			100	
専門科目	水泳II	1	選択	5セメ1T													100	1			100	
専門科目	球技A II (バレーボール)	1	選択	5セメ1T													100	1			100	
専門科目	球技B II (サッカー)	1	選択	3セメ1T													100	1			100	
専門科目	球技C II (バスケットボール)	1	選択	4セメ3T													100	1			100	
専門科目	武道A II (柔道)	1	選択	5セメ2T													100	1			100	
専門科目	武道B II (剣道)	1	選択	3セメ2T													100	1			100	
専門科目	トレーニング実習II	1	選択	4セメ4T													100	1			100	
卒業研究	卒業論文	6	必修	8セメ															100	1	100	

別紙4 健康スポーツ教育プログラム カリキュラムマップ

(専門教育における) 学習の成果		教養教育到達目標	1年		2年		3年		4年	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	1)学校体育とその教育における基本的知識と理解	中等学校を中心とした学校体育を十分理解しており、その問題点や課題に対する改善策を提案できる。	パッケージ科目(○) 健康スポーツ科目(○)	パッケージ科目(○) 健康スポーツ科目(○)	体育科教育概論(○)	体育科教育課程・教材構成論(○) 体育・スポーツ行政学(△)	保健体育科教育方法・評価論(○)			
	2)社会体育とその教育における、基本的知識と理解	社会体育を十分理解しており、その問題点や課題に対する改善策を提案できる。	領域科目(○) 公衆衛生学(○)	領域科目(○)	バイオメカニクス(△) スポーツトレーニング学(○)	救急看護法(○) 体育・スポーツ行政学(△) 学校保健(○) スポーツ社会学(△) 舞踊教育論(△)	スポーツ生理学(○) スポーツ医学(△) スポーツ経営学(△) 運動技術論(△) トレーニング論(△)	スポーツ心理学(○)		
	3)健康やスポーツに関する1)2)を含んだ幅広い知識と理解	健康やスポーツに関する幅広い知識と理解を持ち、総合的・批判的に検討できる。			教職入門(○) 教育の思想と原理(○)	教育と社会・制度(○) 特別活動指導法(○) 生徒指導・進路指導論(○)	児童・青年期発達論(○) 教育課程論(○) 教育方法・技術論(○)	教育相談(○)		
能力・技能	1)学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。また、学校体育のキャリアラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	中等学校を中心とした学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、総合的・批判的に検討できる。また、中等学校を中心とした学校体育に関するキャリアラム(目標・内容・方法)を総合的・批判的に分析したり、デザインとして提案することができる。	教養ゼミ(◎) 英語(○) 初修外国語(○) 情報科目(○) 健康スポーツ科目(○) 陸上競技 I (○) 武道 B I (剣道) (○) 球技 A I (バレー) (○) 球技 B I (サッカー) (○) 野外活動 A I (登山・キャンプ) (△)	英語(○) 初修外国語(○) 健康スポーツ科目(○) 器械運動 I (○) 球技 C I (バスケット) (○) トレーニング実習 I (△)	舞踊 I (○) 水泳 I (○) 武道 A I (柔道) (○) アクアスポーツ (△)			野外活動 B I (スキー) (△) 体育科教育概論演習(△) 体育科教育課程・教材構成論演習(△) スポーツ生理学実験(△) コーチング論実験(△) スポーツ社会学演習(△) スポーツ経営学演習(△) 舞踊教育論演習(△) 運動技術論実験(△)		
	2)社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。また、社会体育のキャリアラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、総合的・批判的に検討できる。また、社会体育のキャリアラム(目標・内容・方法)を総合的・批判的に分析したり、デザインとして提案することができる。	教養ゼミ(◎) 英語(○) 初修外国語(○) 情報科目(○) 陸上競技 I (○) 武道 B I (剣道) (○) 球技 A I (バレー) (○) 球技 B I (サッカー) (○) 野外活動 A I (登山・キャンプ) (△)	英語(○) 初修外国語(○) 器械運動 I (○) 球技 C I (バスケット) (○) トレーニング実習 I (△)	舞踊 I (○) 水泳 I (○) テニス I (○) 武道 A I (柔道) (○) アクアスポーツ (△)			野外活動 B I (スキー) (△) 体育科教育概論演習(△) 体育科教育課程・教材構成論演習(△) スポーツ生理学実験(△) コーチング論実験(△) スポーツ社会学演習(△) スポーツ経営学演習(△) 舞踊教育論演習(△) 運動技術論実験(△)		
	3)健康やスポーツに関する諸問題に関心を持ち、それらを研究することができる。また、各種の運動指導場面において諸条件を考慮した実践的指導力を持っている。	健康やスポーツに関する諸問題に関心を持ち、それらを一定の視点から総合的・批判的に研究し、解決策を提案することができる。また、各種の運動指導場面において諸条件を十分に考慮した高い実践的指導力を持っている。							スポーツ生理学実験(△) スポーツ社会学演習(△) スポーツ経営学演習(△) 体育科教育概論演習(△) 体育科教育課程・教材構成論演習(△) 舞踊教育論演習(△) 運動技術論実験(△) コーチング論実験(△)	
総合的な力	1)個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を企画・立案、実行することができる。	個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を総合的・成功的に企画・立案、実行することができる。	平和科目(○)	健康・スポーツ総論(◎)	生涯活動教育論(◎) 球技 B II (サッカー) (△) 武道 B II (剣道) (△)	陸上競技 II (△) 舞踊 II (△) 球技 C II (バスケット) (△) トレーニング実習 II (△)	水泳 II (△) 球技 A II (バレー) (△) 球技 D II (テニス) (△) 武道 A II (柔道) (△)	器械運動 II (△)		教職実践演習(○)
	2)健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動でリーダーシップを十分発揮することができる。	健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動で適切なリーダーシップを十分発揮することができる。		健康・スポーツ総論(◎)	生涯活動教育論(◎)					

教養教育科目 専門基礎 専門科目 専門選択 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

別紙5

健康スポーツ教育プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
上田 毅	教授	6840	B108	tueda@
齊藤 一彦	教授	7151	B305	saitoh@
出口 達也	教授	6849	B203	deguchi@
東川 安雄	教授	7153	B303	yahigas@
岩田 昌太郎	准教授	6836	B310	ishotaro@
沖原 謙	准教授	6835	B302	okihara@
草間 益良夫	准教授	6843	B208	masurao@
黒坂 志穂	准教授	6844	B213	
大塚 道太	助教	4470	B204	dohtsuka@
福田 倫大	助教	6846	B207	

※E-mail アドレスは「@」のあとに、「hiroshima-u.ac.jp」を付けて送信してください。

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））